

高次脳機能障害啓発講演会

一般社団法人 高次脳機能障害者 サポートネット
〒665-0881 兵庫県宝塚市山本東1-3-6

助成事業の概要

実施目的：

高次脳機能障害についての正しい知識の普及と情報提供を行い、当事者の社会復帰、社会参加につなげていくため

開催日時：

平成30年6月17日（日）13時～16時

開催場所：

宝塚ソリオホール（阪急宝塚駅 徒歩2分）

内容：

高次脳機能障害啓発講演会（144名参加）

対象：

高次脳機能障害当事者・家族・支援者・一般市民

内容：

① 高次脳機能障害についてリハビリテーション専門医の梶間医師（医療法人社団敬智会梶原病院・NPO 法人高次脳機能障害支援ネット理事）に、高次脳機能障害、認知症・発達障害も含めた病態の説明とポジティブな行動支援方法についてお話していただきました。

② 平成29年度の珈琲焙煎工房 Hug の活動についてスライドショーを使って報告しました。

③ ソリオホールのロビーで珈琲焙煎工房 Hug

の利用者による商品の販売活動を行いました。

事業の成果

今回の講演会では、当事者家族だけではなく、福祉・医療関係の支援者の方にも多くご参加いただきました。チラシを地域包括支援センターなど、介護関係の事業所にも配布した効果だと思えます。

高次脳機能障害は見た目にはわかりにくく、症状も人それぞれのため、家族・支援者にとっても対応が難しいと言われています。テーマは『高次脳機能障害・認知症・発達障害のための邪道な地域支援講座』として、梶間先生にお話していただきました。「邪道な」というのは、先生の著書からとったものですが、先生は邪道だとする理由として、1つ目は高次脳機能障害・発達障害・認知症をひとくくりにして脳の機能障害としてとらえていること。2つ目は脳機能解剖を、動物脳と人独自の脳の相互作用という観点でとらえているということ。3つ目はマンガをたくさん使っていることとされています。

当事者のもつ問題の原因を疾患で考えるのではなく、原因が何であっても役に立つ共通対応を中心に話していただきました。問題を改善させるには注意してやめさせるよりも、気をそらせた方がうまくいくことや、当事者の理解が深まる記憶障害のとらえ方、注意機能の訓練にもなるコミュニケーションの方法などについて教えていただき

ました。ポジティブな行動支援をするためには、共感の気持ちと社会的視点の両方をうまくバランスをとっていくことが大切だというお話はとても新しい視点で家族や支援者にとっても有益な情報となりました。講演の途中では実際にワークをするという場面もありました。マインドフルネス訓練を行い、自分の注意の状態を自覚するという体験をしました。さらに、共同注意のワークとして親しい人と手をつないで自分の呼吸を数えると相手の呼吸数と近くなるという体験も行いました。共感本当に体から体へ伝わるということを感じてもらったのではと思います。休憩をはさんで2時間という長い時間でしたが、たくさんの情報を効果的にお話していただき、来られた方にとってもわかりやすく役立つ内容でした。

最後に珈琲焙煎工房 Hug での活動をスライドショーでご覧いただきました。珈琲豆の選別作業などは、なかなかイメージしにくいと思いますが、写真で見ただけにより、作業の内容についても理解が深まったと考えられます。その他の様々な活動についてもお話だけよりもよく伝わったと思います。

ロビーでの販売活動は、利用者さんたちにとっても自分たちの作った商品を買っていただける大変貴重な体験となりました。販売で得た売上はすべて利用者さんの工賃となります。こうした活動の中で日頃の作業への取り組みにも変化が出てくると思われま。

成果の広報・公表

利用者さん向けには、講演会当日の写真を載せたプリントを配布し、対外的には法人のホームページブログと Facebook にて広報しました。また、先生が当日のワークのデータについてもフィード

バックして下さっていて、その内容についても掲載させていただいています。

ホームページ URL <http://sptnet.org/>

今後の展開

今回で当法人が主催する講演会は4回目となりました。助成金をいただけたことで、東京から榎間先生にお越しいただけることになりました。高次脳機能障害は障害そのものがまだ広く社会に知られておらず、今後も啓発活動を続けていかなければならないと感じています。

アンケート集計結果にもありますが、とりあげてほしいテーマも多岐にわたります。希望が多かったのは、心理面のケア、就労支援でした。また、小児への関心も高かったです。高次脳機能障害の当事者というのは大人だけではなく、小児・児童の場合もあります。就学や復学という課題があるにもかかわらず、支援者がほとんどおらず家族も困難を抱えています。また、高次脳機能障害の親をもつ子どもたちへの支援もほとんどありません。実際に困っている人たちのもとへ支援をつなげられるように、私たちが日頃から地域の民生委員さんや就労支援機関、学校などと連携していきたいと考えています。

また、講演会でとりあげるテーマも様々な角度から検討し、地域社会生活から専門的な内容のものまで幅広く啓発していきたいです。

また、珈琲焙煎工房 Hug という作業所を中心とした地域とのつながりや家族、支援者同志のつながりを大切にして活動を継続していきたいと思